#### 平成27年(2015)年1月7日

# 家畜衛生広報



ながの

長野家畜保健衛生所 北信家畜畜産物衛生指導協会 〒380-0944 長野市安茂里米村1993 Tel 026-226-0923 Facs. 026-227-2665 E-mail:nagakachiku@pref. nagano. lg. jp

# 新しい年にあたり

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、**健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます**。

昨年は、6月に富岡製糸場が「世界文化遺産」に登録され、11月にはノーベル物理学賞に青色LEDを開発した赤崎勇、天野浩、中村修二の3氏が受賞するなど明るいニュースがあったものの、2月の大雪、8月の木曽地域での大雨、9月の御嶽山噴火、11月の長野県神城断層地震の発生など、県内での自然災害の発生が非常に目立った1年でありました。

一方、家畜衛生を取り巻く状況をみますと、韓国で猛威をふるっている高病原性鳥インフルエンザH5N8が、4月には熊本県、12月には宮崎県、山口県で発生しました。本病は、ドイツや米国でも発生があり、世界的な流行が懸念されています。また、口蹄疫も韓国をはじめ東アジアを中心に続発しています。

これらの家畜伝染病は、本県でいつ発生してもおかしくない状況にありますので、畜産農家の皆様におかれましては、家畜・家きんの健康観察、畜舎の消毒の励行、関係者以外の農場立入の制限、野鳥やネズミなど野生動物の侵入防止のための防鳥ネットの点検などの再度の徹底をお願いするとともに、異状を発見した場合には直ちに当所や担当獣医師に通報するようお願いします。

終わりに、本年が皆様方にとって良い1年となりますとともに、家畜防疫に とっても平穏な年であることを祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただ きます。

私たち所員一同、一丸となって皆様とともに家畜衛生の向上並びに畜産の振興にまい進して参りますので、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

長野家畜保健衛生所長 久米田 章仁

## 踏み込み消毒槽は伝染病予防の第一歩

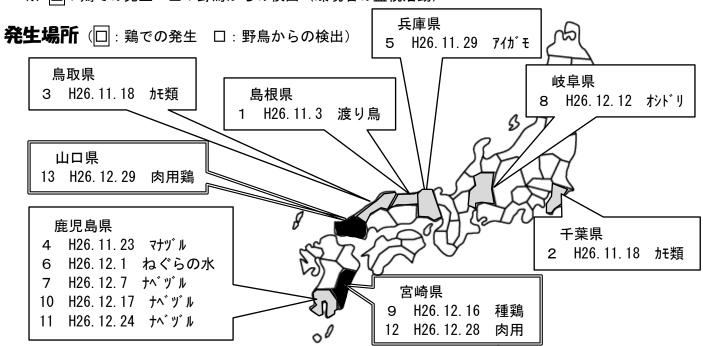
まずは踏み込み消毒槽を畜舎に置きましょう

## 国内で高病原性鳥インフルエンザが発生しています。

#### 今シーズンの高病原性鳥インフルエンザ発生・検出状況

N.	& 生/同师) D	和某位用	市町村	畜種・材料 亜型			
No	<u>発生(回収)日</u>	都道府県	印刷剂	<u> </u>	田俚"彻	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	田空
	1 H26.11.3	島根県	安来市	野鳥	渡り鳥	糞便	H5N8亜型
	2 H26.11.18	千葉県	長生郡長柄町	野鳥	カモ類	糞便	H5N8亜型
	3 H26.11.18	鳥取県	鳥取市	野鳥	カモ類	糞便	H5N8亜型
	4 H26.11.23	鹿児島県	出水市	野鳥	マナヅル	衰弱個体	H5N8亜型
	5 H26.11.29	兵庫県	南あわじ市	野鳥	アイガモ (野生化個体)	死亡個体	H1N1亜型
	6 H26.12.1	鹿児島県	出水市	野鳥	_	保護区内のツル の越冬用池の水	H5N8亜型
	7 H26.12.7	鹿児島県	出水市	野鳥	ナベヅル	死亡個体	H5N8亜型
	8 H26.12.12	岐阜県	可児市	野鳥	オシドリ	死亡個体	H5N8亜型
	9 H26.12.16	宮崎県	延岡市	種鶏	約4,000羽		H5N8亜型
1	0 H26.12.17	鹿児島県	出水市	野鳥	ナベヅル	死亡個体	H5N8亜型
1	1 H26.12.24	鹿児島県	出水市	野鳥	ナベヅル	死亡個体	H5N8亜型
1	2 H26.12.28	宮崎県	宮崎市	肉用鶏	約42,000羽		H5N8亜型
1	3 H26.12.29	山口県	長門市	肉用鶏	約37,000羽		H5N8亜型

※ 
□:鶏での発生 □:野鳥からの検出(環境省の監視活動)



宮崎県、山口県の発生農場では、農場周辺に「ため池」や「ダム」といった野鳥が飛来する水場がある点が共通しています。改めて野鳥や野生動物の侵入防止を図ってください。

### 対策のポイント

- ◆ 家きんの健康観察をこまめに行い、異状の早期発見に努めましょう。
- ◆ 飼養衛生管理基準を遵守し、病気の侵入を防ぎましょう。
- ◆ 野鳥等の侵入防止のため、鶏舎に2cm角以下の網目の防鳥ネットを設置し、間隙を塞ぎましょう。 また、破損が見つかったら、直ちに補修しましょう。
- ◆ 農場入口では車両、靴、持込む物等の消毒を徹底し、畜舎内外の消毒を行いましょう。
- ◆ 外部からの人や車をなるべく農場に入れないようにしましょう。
- ◆ やむを得ず入れる場合は、海外への渡航歴や他農場を訪問していないかどうか確認しましょう。
- ◆ 従業員の方も含めて、鳥インフルエンザが発生している国 (中国、韓国、東南アジアなど) への 渡航は控えましょう。